

令和5年度病害虫発生予察注意報第5号

令和5年7月3日
愛知県

作物名：ブドウ

病害虫名：べと病

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多い

3 注意報発表の根拠

(1) 6月下旬に県内17ほ場で行った巡回調査において、発病葉率が1.41%（平年0.33%、前年0.22%）、発生ほ場率が35.3%（平年9.4%、前年11.1%）といずれも過去10年と比較して最も高かった。

(2) 6月29日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、本病の発病に好適な条件が続く。

4 防除上注意すべき事項

(1) 発病葉（図1）、発病果（図2）は伝染源となるので、園外に持ち出す等、適切に処分する。

(2) 本病は、雨水によって感染する。特に連続した降雨により短期間のうちに一気に広がるため、降雨の合間を利用して予防散布に努める。

(3) 発病を確認したら、農薬（表）により早急に防除を徹底する。

(4) まだ柔らかい葉は本病に感染しやすく、窒素肥料の多い園、若木など遅伸びした新梢に多く発生するため、新梢にも十分農薬がかかるように防除する。

(5) 本病がまん延し、早期落葉すると樹勢が著しく低下し、翌年以降にも影響するので、十分注意する。

(6) ブドウべと病は薬剤耐性を獲得しやすい病原菌であるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

(7) 愛知県において、平成23年にQoI剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル等；FRACコード：11）に対する耐性菌の発生を確認しているため、本病に対して使用することは控える。



図1 葉裏での症状



図2 果実での症状

表 ブドウベと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
オロンディスウルトラSC	オキサチアピプロリン、マンジプロパミド	収穫14日前まで	2回以内※	40, 49
ライメイフロアブル	アミスルブロム	収穫14日前まで	3回以内	21
ランマンフロアブル	シアゾファミド	収穫14日前まで	3回以内	21
エトフィンフロアブル	エタボキサム	収穫7日前まで	4回以内	22
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	収穫7日前まで	3回以内※	40
I C ボルドー 4 8 Q	銅	-	-	M01
I C ボルドー 6 6 D	銅	-	-	M01

※マンジプロパミドを含む農薬の総使用回数は3回以内

成分ごとの総使用回数に注意する。

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 (内線471)